

## 齊・管仲伝

< 論語に曰く >

子貢曰く、「管仲は仁者に非ざるか。桓公、公子糾を殺して、死すること能はず、又これを相(助)く。」子曰く、「管仲、桓公を相けて諸侯に覇たり、天下を一匡す。民、今に到るまで其の賜を受く。管仲微(な)かりせば、吾れ其れ髪を被り衽(襟)を左にせん。豈に匹夫匹婦の諒<sup>まこと</sup>を為し、自ら溝瀆に經(くび)れて知らるることなきがごとくならんや」と。(憲問第十四の18)・・・注：匹夫匹婦の如くつまらぬ義理立てをして死ぬのとは異なる。

子路曰く、「桓公公子糾を殺す。招忽これに死し、管仲は死せず。曰く、未だ仁ならざるか。」子曰く、「桓公、諸侯を九合して、兵車を以てせざるは、管仲の力なり。其の仁に如かんや、其の仁に如かんや。」(憲問第十四の17)

或る人子産を問う。子曰く、「恵人なり。」子西を問う。曰く、「彼をや、彼をや。」管仲を問う。曰く、「(この)人や、伯氏の駢邑三百を奪い、疏食を食らいて齒<sup>よわい</sup>を没するまで得怨言なし。」(憲問第十四の10)(荀子・仲尼編 参照)

子曰く、「管仲の器は小なるかな。」或るひとの曰く、「管仲は僉なるか。」子曰く、「管氏に三歸(三家の女を妻にした)あり、官の事はは摂(兼)ねず、いづくんぞ僉なるを得ん。」「然らば礼を知るか。」曰く、「邦君、兩君の好みを為すに反玷(杯を戻す台)あり、管氏も亦た反玷あり。管氏にして礼を知らば、孰れか礼を知らん。(八佾第三の22)

【齊・公孫無知の反乱】(莊公8~9年)前・686・685

桓公18年(前694)・・・齊の襄公・文姜と、魯の桓公を弑す

齊の襄公が魯の桓公夫人・文姜と密通して、魯の大夫・申繻に諫言されたが聴かず、遂に魯侯(桓公)に姦通が知れると、公子彭生に命じて、魯侯を車中で殺害させた。その後、諸侯への申し開きに彭生を殺した。

莊公8年(前686)・・・大夫二人が齊の襄公を弑し、公孫無知を擁立

齊の襄公が、連称と管子父の大夫二人に葵丘の守備を命じて瓜の熟す七月に出発させ、来年の七月に交代させるという約束をした。一年間守備を勤めたが何の音沙汰も無い。交代を願いでたが許可されなかった。そこで二人は謀反を企てた。襄公を弑し、先君(襄公の父)・僖公に寵愛されていた襄公の実弟・夷仲年の子・公孫無知を擁立したのである。

莊公8年(前686)・・・鮑叔牙と管仲(管夷吾)

かつて襄公が位にあった頃、襄公の言行常無きいい加減さに、鮑叔牙曰く、「君、民を使うこと（放）慢なり。乱將に作らんとす」と。公子・小白を奉じて莒に出奔していた。公孫無知の乱が起きると、管仲と召忽は、公子糾を奉じて来奔した。

莊公9年（前685）・・・春、齊人、無知を殺す  
公孫無知にかつて虐げられた雍廩が無知を殺害した。

莊公9年（前685）・・・秋、鮑叔牙、桓公を輔け公子糾を弑し管仲を推挙す

夏、魯侯(莊公)は、齊を伐って子糾を送り込もうとしたが、小白(桓公)が莒から先に齊の国都に入った。秋、齊軍と魯軍が乾時で会戦し、魯軍は敗績した。  
鮑叔牙が軍を率いてきて曰く、「公子糾は我が君・桓公の親族ゆえ、魯君側で処分願いたい。管仲(召忽も)は讎(仇敵)である。請う、受けて甘心せん(思う存分に処刑せん)」、と。  
**公子糾は殺され、召忽は殉死した。**管仲は「囚われんと請う」たので、「鮑叔之を受け、堂阜に及びて之を税(と)く(縄をとく)。帰りに以て告げて曰く、『管夷吾は(上卿の)高僎よりも治まる(政治の才ある)。相たらしめて可なり』、と」。(桓)公之に従う。  
史記。齊太公世家』に管仲が莒から齊への道を遮断し、桓公に矢を射掛けた。桓公は鉤(帶の留め金)に矢が当たると、死んだふりをして、管仲をだました、とある。

【**長勺の戦い**】莊公10年(前684) 齊、魯に敗れる。<sup>そうけい</sup>曹劌の三鼓

齊の軍隊が魯を攻めた。魯の莊公が戦おうとすると、<sup>そうけい</sup>曹劌が謁見を請うた。同郷の者が、「**肉食(をやる高位)のもの、之を謀る(対策を計る)**」、と引き止めたが、<sup>そうけい</sup>曹劌は、「**肉食の者は(見識が)鄙し。未だ遠謀すること能はず**」、と言って、莊公に会って曰く、「何を以て戦う」と。

莊公「衣食の安んずる所、敢えて専らにせず、必ず以て人に分かたず」

<sup>そうけい</sup>曹劌「小恵未だ遍からず、民従はざるなり」

莊公「犠牲玉帛、敢えて加えず、必ず信を以てす」

<sup>そうけい</sup>曹劌「小信未だ孚(まこと)ならず。神、福せざるなり」

莊公「小大の獄、察すること能はずと雖も、必ず情を以てす」

<sup>そうけい</sup>曹劌「忠の属なり。以て一戦すべし。戦はば則ち請う従はん」

莊公之と乗り、長勺に戦う。「<sup>そうけい</sup>曹劌の三鼓」で齊を破る。「其れ戦いは勇氣なり。太鼓は一打ちで気を作し、二打ちで衰え、三打ちで竭く。彼は竭き我は盈つ。故に之に克つ」。

莊公 10 年(前 6 8 4) 齊、譚を伐つ。次いで魯を攻め、柯で盟を交わした。

莊公 15 年(前 6 7 9) 齊侯、宋侯、陳侯、衛侯、鄭伯、鄆(けん)に会す。

十五年、春、復た会す。齊始めて覇たるなり。

莊王 22 年(前 6 7 2) 陳の敬仲、齊の桓公と酒を飲む

陳の公子・完(敬仲)が亡命してきた。齊の桓公は敬仲を卿に任命しようとしたが、敬仲は、過大な待遇を戴いている、それだけで十分です、と深謝して断った。そこで百工の長たる工正に任じた。ある時敬仲は桓公を酒宴に招いた。余りの楽しさに桓公が、「火を用意して続けよう」と言うと、辞して曰く、「臣、其の昼をトして、未だその夜をトせず。敢えてせず(御免を蒙ります)」と。

君子曰く、「酒を以て礼を成し、繼ぐに淫を以て背ざるは、義なり。君を以て礼を成し、淫に納れざるは、仁なり」と。

莊公 32 年(前 6 6 2) 春、魯は魯に尽くした管仲のために小穀に城を築いた。

閔公元年(前 6 6 1) 狄人が邢を伐つ。邢から救援要請の書簡が届いた。管仲桓公に曰く、

「戎狄は豺狼(やまいぬ、狼)なり。厭かしむべからざるなり。諸夏は親昵なり、棄つべからざるなり。(中華思想) 宴安は酖毒なり、懷うべからざるなり。詩に云う、豈に帰ることを懷はざらんや。此の簡書を畏る」と。そして邢を救うべく桓公に進言した。齊人、邢を救う。

閔公元年(前 6 6 1) <霸王の器>

前年、魯の大夫・慶父が子般を殺害した。齊人は、叔姜の生んだ閔公を国君に立てた。その魯の内紛を視察するため、齊の仲孫湫が魯国の乱れを視察し桓公に報告した。

桓公曰く、魯取るべきか、と。(仲孫湫) 対えて曰く、「不可なり。猶周の礼を秉(執)れり。周の礼は本たる所以なり。臣之を聞く。『国の將に滅びんとするや、本先ず顛(覆)りて、しかるのちに枝葉之に従う』と。魯は周の礼を棄てず。未だ動かすべからざるなり。君それ努めて魯の難を寧んじてこれに親しめ。礼ある者に親しみ、堅固な者に因り親しみ、離反者を遠ざけ、混乱を覆すのが霸王の器なり」と。

閔請 2 年(前 6 6 0) 桓公の妹・哀姜殺害される

閔公は、莊公夫人の哀姜の妹の叔姜が産んだ子である。齊の人は之を擁立して国君としたのだが、哀姜は共仲(慶父)と私通し、慶父を国君にしたがっていた。慶父が閔公を殺すと、公子・申が立ち、僖公となる。哀姜は事件にかかわったかどで、齊人捕らえ殺害した。

僖公3年(前657) **桓公、蔡姫と舟に乗る**

桓公、庭園の池で蔡姫と舟に乗った。蔡姫が桓公を揺らした。公、懼れて色を変ず。之を禁ずれどもきかず。公、怒りて之を蔡に帰した。未だ離婚はしなかった。(なのに)蔡人之を嫁す。

僖公4年(前656) **桓公、蔡を伐つ**

齊侯、諸侯の師を以て蔡を侵す。蔡潰ゆ。

【召陵の盟】= 齊、宋、陳、鄭、そして楚の盟 (BC656年)

桓公は蔡を侵略した勢いで、楚を攻撃した。楚は使者を派遣して曰く、

<使者>

君(齊の桓公)は北海に處り、寡人(楚の成王)は南海に處り、唯だ是れ**風する馬牛**も相及ばざるなり。(雌雄誘って駆け回る馬牛も、領域を争う距離にないほど遠い、の意) 虞(はか)らざりき、君の吾が地に涉らんとは。何の故ぞ、と。

<管仲>

昔、召康公(周の一族、文王の子)我が先君太公に命じて曰く、五侯九伯、汝實に之を征して、以て周室を挾輔せよ、と。我が先君に履(領土)を賜い、東は海に至り、南は穆陵に至り、北は無棣に至る。爾の貢(みつぐ)する苞茅入らざれば、王の祭祀供はらず。以て酒を縮すことなし。寡人(桓公)是れ徴(収)す。昭王(周の成王の孫)南征して復らず。寡人は是れ問う、と。

<使者>

貢(物)の入らざるは、寡君の罪なり。敢えて供給せざらんや。昭王の復らざるは、君それこれを水濱(漢水=川の名、ここで溺死したといわれている)に問え、と。

そこで、諸侯の軍は楚の涇に陣を敷いた。

夏になると、楚の成王は、屈完を使者として諸侯の軍に赴かせ和平の意を伝えさせた。

桓公は屈完と同乗して閱兵して曰く、

<桓公>私が攻め入ったのは、自分のためではない。先君以来の友好を継続せんがためだ。楚國も私と友好を結ばれては如何か。

<屈完>君恵みて福を弊邑の社稷に徼め、<sup>もと</sup>辱なく寡君を収むるは、寡君の願いなり、と。

<桓公>此の衆を以て戦はば、誰か能く之を待たん。此れを以て城を攻めば、何の城か克たざらん、

<屈完>君もし徳を以て諸侯を綏<sup>やす</sup>んぜば、誰か敢えて服せざらん。君もし力を以てせば、楚國は方城以て城となし、漢水以て池となす。衆しと雖も之を用ふる所無からん、と。

屈完、諸侯と盟う。

【<sup>なはいむ</sup>甯母の盟】秋、七月、魯公、齊公、宋公、陳、鄭の世子・華に会して魯の地で盟う。  
( 僖公七年 = BC653 年 )

管仲曰く、「臣、之を聞く、『離るるを招くには礼を以てし、遠きを懐くるには徳を以てす。徳礼易えざれば、人として懐かざるは無し』、と。齊侯、礼を諸侯に修む。

上記会盟は、鄭の処置のことで集まった。鄭伯は、太子華を代表に送った。太子華は、姑息な条件を以て齊に下らんとして齊・桓公に言った。

<子華> 我が国の大夫の三族である、泄氏・子氏・孔氏（孔叔）は、君命に逆らうものどもです。もし公が、これを追い払って下されば、私は鄭をあげてご家来となりましょう、と。 <齊公將に之を許さんとす。管仲諫言して曰く、>

<管仲>

我が君は礼と信を以て諸侯をひきよせているのに、姦（よこしまな手段）を以て之を終わらば、非常によくないことです。

<桓公> 諸侯が鄭を討つことあれども未だ勝てない。今、つけこむ隙があるならそれに乗ずるのも又よいことではないのか。

<管仲>

いえいえ、君が徳を以て鄭を安んじ、さらに訓示を以てし（諸侯の和合は周室の輔弼という大義）、そあいて諸侯を率いて鄭を討てば、鄭も自国の覆亡に暇がないでしょう。どうして恐れる必要がありましょうや。もし罪人（＝子華、父の命に背いた）を率いて鄭征伐に向かわば、鄭に言い訳を与えてしまうことになります。そもそも、君が諸侯を合するのは、以て徳を尊ぶからです。会盟に姦を列ねたとなれば、どうして子孫に手本が残せましょうか。しかも、会盟の徳刑礼儀の記録はどの諸侯の記録にも記されます。君、許すことなかれ。大丈夫です。鄭は必ず盟を受けます。そして、華は既に太子です。それなのに、大国を介して以て自国を弱めんとしています。必ず禍に遭うことでしょう。鄭には、孔叔はじめ三良（三人の良臣）が政治を行ってがっちり国を守っています。未だ乗じる隙はありません』、と。 齊公は子華に断りを入れた。

子華はこれにより罪を得、鄭伯盟を齊に請う。

【葵丘（ききゅう）の盟】( 僖公九年 ) BC 6 5 1 年 周の襄王

魯、齊、宋、衛、鄭等が同盟関係強化を目的。桓公は、周室に対する忠節の態度を示した。

【論語】憲問篇に曰く、「晋の文公は譎りて正しからず。齊の桓公は正しくして譎らず」。

【孟子】告子下に曰く、「五霸は桓公を盛なりと為す。葵丘の会に、諸侯牲を束ね、書を載せて血をすすらず。初命に曰く、・・・再命に曰く、・・・五命に曰く、・・・」

葵丘の盟に曰く、「凡そ我が同盟の人、既に盟うの後、言(ここ)に好みに帰せん」と。

「史記」(齊太公世家)に曰く、「桓公既に管仲を得、鮑叔・隰朋・高傒と與に、齊国の政を修め、五家の兵を連ね(五軒の家を単位とする兵員登録制度を定め)、(物価の)輕重・魚塩の利(益)を設け、以て貧窮を賑し、賢人能を祿す。齊人皆説ぶ。」とある。

管仲、周王の饗賜を辞退す。(僖公十二年) BC648 年

齊の桓公、管仲をして、戎と周・晉とを和解させた。周王喜んで、上卿に対する礼を以てした。管仲は、齊には二人の上卿がいるという理由でそれを辞退した。かくて管仲は下卿の礼遇を以て帰国した。君子曰く、

「管仲の世々祀(まつ)らるるや、宜なるかな。譲りて其の上を忘れず。詩に曰く、愷悌(安らぎ楽しむ)の君子、神の勞す所」と。

「史記」(齊太公世家)に曰く、「このとき、周室、微なり。唯だ齊・楚・秦・晉を強と為す。晉は初め会に与かりしが、献公死し、国内乱る。秦の穆公は、(地)辟遠にして、中国の会盟に与らず。楚の成王は、初めて荊蛮の地を収めて之を有ち、夷狄をもて自ら置く。唯だ独り齊のみ中国の会盟を為す。而して桓公能く其の徳を宣ぶ(宣べ布く)。故に諸侯、賓会す。桓公称して曰く、「寡人、兵車の会は三たび。乗車の会は六たび。諸侯を九合し、天下を一匡す。昔三代の命を受くるも、何の以て此れに異なるあらんや」と。泰山に封禪の儀を為さんとして管仲に諫言され思い止まる。「益々驕色あり」で天狗になってきた。

僖公 15 年(前 6 4 5) 管仲卒す。

「史記」(齊太公世家)に曰く、管仲病むとき、桓公問う。「群臣誰か相とすべき者ず」と。管仲曰く、「臣を知るは君に如くものなし」と。「易牙」「開方」「豎刁」を順次問うが×。しかし、管仲死後其の意見を用いず三子を近づけ用い、三子権を専らにした。

僖公十七年 (BC643) 桓公卒す。桓公色を好み、相続争い生ず。

桓公に三夫人あり、子無し。女色を好み、寵愛する女多し。夫人待遇の愛妾六人あり。それ故、管仲が卒するに及び、公子たちが桓公の後釜椅子を狙った。武孟(無虧) 恵公(公子元) 孝公(公子昭)等である。十月、桓公卒す。易牙(雍巫) 武孟(無虧)を擁立す。孝公、宋に出奔す。

僖公一八年、宋の襄公、武孟(無虧)を殺し、孝公を立てる。 以上